



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 愛眼株式会社

コード番号 9854 URL <http://www.aigan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 下條 三千夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長

(氏名) 佐々 昌俊

TEL 06-6772-3383

四半期報告書提出予定日 平成29年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	12,187	△4.0	29	△87.3	87	△71.4	△221	—
28年3月期第3四半期	12,690	4.6	233	—	307	—	233	—

(注)包括利益 29年3月期第3四半期 △234百万円 (—%) 28年3月期第3四半期 269百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
29年3月期第3四半期	△11.44	—
28年3月期第3四半期	12.01	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	17,126	14,165	82.7
28年3月期	17,334	14,438	83.3

(参考)自己資本 29年3月期第3四半期 14,165百万円 28年3月期 14,438百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
28年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	16,252	△1.9	△154	—	△77	—	△418	—	△21.59

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期3Q	21,076,154 株	28年3月期	21,076,154 株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	1,667,528 株	28年3月期	1,667,474 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期3Q	19,408,655 株	28年3月期3Q	19,409,190 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善傾向が続くなか、総じて緩やかな景気回復基調で推移いたしました。一方、中国経済の減速や英国のEU離脱問題をはじめ、米国新政権下で経済政策の不確実性が高まる懸念があり、内外の金融・経済情勢は依然として先行き不透明な状況が続いております。また、家計部門では、可処分所得の伸び悩みや社会保険料等の増加に伴う将来の負担増に対する生活防衛意識の高まりにより、個人消費に停滞感が見られます。眼鏡小売市場につきましては、個人の消費マインドの低迷が続くなか、企業間競争の激化と相まって厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと当社グループは、当期を将来に向けた成長基盤を構築する事業年度として位置づけ、営業体制の整備や顧客層別の施策の見直しに取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、主に眼鏡小売事業における低価格帯商品の販売数の伸び悩み等により、売上高は12,187百万円（前年同四半期比4.0%減）と前年同期を下回る結果となり、売上総利益率は0.5%減少しました。また、販売費及び一般管理費の節減に努めましたが、各種広告媒体の利用に伴う広告宣伝費や既存店の活性化投資などが増加しました。保有する固定資産については、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、資産の将来の回収可能性を検討した結果、減損損失232百万円を特別損失として計上いたしました。この結果、営業利益は29百万円（前年同四半期比87.3%減）、経常利益は87百万円（前年同四半期比71.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失は221百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益233百万円）となりました。今後とも売上増進と徹底した経費コントロールに取り組み、収益基盤の改善を図ってまいります。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

#### [眼鏡小売事業]

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、「NEW愛眼プロジェクト」で築き上げたヤング・ニューファミリー層の営業基盤の維持・拡大に継続して取り組みながら、ミドル・シニア層への対応強化を並行して推し進めております。個人のライフスタイルや価値観の変化に伴う趣味・スポーツ熱や健康意識の高まりなど多様化するニーズに対応するために、特に、ミドル・シニア層に対しては、眼鏡専門店として自信をもって提供してきた「視力補正技術」をアピールしながら、材質・機能・デザインなどコストパフォーマンスに優れた商品の品揃えの拡充や接客サービス面の強化など様々な施策に取り組んでまいりました。

商品に関しては、「目の健康」をテーマとした快適で機能的なレンズやフレームなどの高付加価値商品を増強し、お客様にとって安心でお買い得な商品の充実に努めることで幅広い年齢層の多様なニーズに対応してまいりました。

売上高に関しては、眼鏡の品揃えの充実、丁寧なアドバイスや接客の推進によって販売単価は改善しましたが、低価格帯商品の販売数が伸び悩んだことや、前期及び当期に実施した店舗閉鎖による売上減少の影響で減収となりました。品別では、サングラスの売上高は、品揃えの充実とそれに沿った販促の強化により増収となりました。また、補聴器の売上高は、前年同期の大幅な伸長の影響で前年同期比では伸び悩みましたが、引き続きお客様の満足度向上を目指したアフターサービスのさらなる強化と補聴器取扱いの認知度向上に取り組んでまいります。

店舗に関しては、3店舗を出店、11店舗を閉店し、14店舗で改装を実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は11,556百万円（前年同四半期比4.0%減）、セグメント利益は114百万円（前年同四半期比59.5%減）となりました。

#### [写真館事業]

直営の写真館（名称：愛写館）3店舗を営む写真館事業につきましては、おかげさまで20周年を迎えました。第3四半期連結累計期間においては、成人式前撮り撮影、七五三写真撮影、子供写真企画、写真画像オールデータ購入プランを実施するとともに、各種プラン割引、焼き増し半額割引、振袖レンタル割引などによる集客力の強化に努めました。また、平成28年10月からは日頃のご愛顧に感謝の気持ちを込めて期間限定の「20周年記念特別クーポン券」を発行し特別価格でのご奉仕を実施したものの、市場競争の激化により厳しい状況となりました。

この結果、写真館事業における売上高は94百万円（前年同四半期比4.2%減）、セグメント損失は27百万円（前年同四半期はセグメント損失18百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は17,126百万円、負債合計は2,961百万円、純資産合計は14,165百万円となりました。前連結会計年度末に比べ負債合計が64百万円増加し、純資産合計が273百万円減少した結果、自己資本比率は82.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年11月4日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更による当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,749	4,743
受取手形及び売掛金	760	925
商品及び製品	2,261	2,338
原材料及び貯蔵品	24	34
その他	243	201
貸倒引当金	△5	△4
流動資産合計	8,035	8,239
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,062	1,067
土地	1,900	1,887
リース資産（純額）	81	38
その他（純額）	84	81
有形固定資産合計	3,128	3,075
無形固定資産		
リース資産	138	59
その他	31	15
無形固定資産合計	169	74
投資その他の資産		
投資有価証券	1,607	1,516
敷金及び保証金	3,715	3,553
その他	677	666
投資その他の資産合計	6,000	5,736
固定資産合計	9,299	8,887
資産合計	17,334	17,126

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	494	676
1年内返済予定の長期借入金	60	245
未払法人税等	148	131
賞与引当金	54	0
その他	986	1,068
流動負債合計	1,742	2,122
固定負債		
長期借入金	225	—
繰延税金負債	52	57
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	339	337
リース債務	359	269
その他	171	168
固定負債合計	1,153	838
負債合計	2,896	2,961
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	5,356	5,095
自己株式	△1,050	△1,050
株主資本合計	16,745	16,484
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	124	132
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	39	19
その他の包括利益累計額合計	△2,307	△2,319
純資産合計	14,438	14,165
負債純資産合計	17,334	17,126

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	12,690	12,187
売上原価	3,892	3,797
売上総利益	8,797	8,390
販売費及び一般管理費	8,563	8,361
営業利益	233	29
営業外収益		
受取利息	15	13
受取配当金	13	12
受取家賃	49	51
その他	37	37
営業外収益合計	115	114
営業外費用		
支払利息	3	2
固定資産除却損	3	7
賃貸費用	29	33
その他	5	13
営業外費用合計	41	56
経常利益	307	87
特別利益		
投資有価証券売却益	33	—
特別利益合計	33	—
特別損失		
投資有価証券売却損	1	—
投資有価証券評価損	—	1
減損損失	34	232
特別損失合計	35	234
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	305	△146
法人税、住民税及び事業税	73	72
法人税等調整額	△0	2
法人税等合計	72	75
四半期純利益又は四半期純損失(△)	233	△221
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	233	△221



（四半期連結包括利益計算書）  
（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	233	△221
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	38	7
為替換算調整勘定	△2	△19
その他の包括利益合計	36	△12
四半期包括利益	269	△234
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	269	△234
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間（自平成27年4月1日至平成27年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	眼鏡小売	写真館	計				
売上高							
外部顧客への売上高	12,033	98	12,132	557	12,690	—	12,690
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	63	63	△63	—
計	12,033	98	12,132	621	12,753	△63	12,690
セグメント利益又は損失 (△)	283	△18	265	△3	262	△28	233

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、卸売事業等であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去10百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△38百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	眼鏡小売	写真館	その他	全社・消去	合計
減損損失	34	—	—	—	34

II 当第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	眼鏡小売	写真館	計				
売上高							
外部顧客への売上高	11,556	94	11,651	536	12,187	—	12,187
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	60	60	△60	—
計	11,556	94	11,651	597	12,248	△60	12,187
セグメント利益又は損失 (△)	114	△27	87	△3	84	△55	29

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、卸売事業等であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去9百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△65百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

（単位：百万円）

	眼鏡小売	写真館	その他	全社・消去	合計
減損損失	121	—	—	110	232